

# 孔子 コウシ 552～479B.C.

中国、春秋時代の魯の思想家。名は丘(きゅう)、字(あざな)は仲尼(ちゅうじ)。儒家の祖。

孔子は、周初の礼文化をよく伝えた魯の国、昌平郷 陬邑(しょうへいきょう すうゆう)に生れた。孔子の幼年時代は恵まれたものではなかった。『論語』に「吾十有五にして学に志す」とあるように、幼くして父親を亡くし貧困のうちに育った彼は、早くから学問に関心を持ち、学問で身を立てることを目指した。20歳を過ぎた孔子は、委吏(きし：倉庫出納係)、司職(ししよく：家畜係)といった魯の国の下級役人となる。魯の定公が位については、次第に昇進を重ね、中都(ちゅうと)の宰を経て大司寇(だいしこう：司法の長官)に累進し国の政治に携わるようになった。55歳のときには宰相の代行を任されるようになったが、魯の権力者「三桓(さんかん)」をおさえようとして失敗し、やむなく職を退いて魯から去った。

孔子は、弟子の顔回・子路らと14年間にわたって諸国を周遊し徳治を説いた。しかしながら、結局のところ、諸侯に受け入れられることはなかった。69歳で魯に帰国した孔子は、「道」を後世に伝えることを願って弟子の教育に専念し、74歳で没した。『史記』は、孔子の弟子を「弟子蓋(けだ)し三千、身、六芸に通ずる者、七十有二人」と伝えている。

## Great Books 02 論語(ろんご)

孔子とその弟子たちの言行録。四書(大学・中庸・論語・孟子)の一。20編。儒教の代表的な經典であり、後世に大きな影響を与えた。

『論語』は、孔子自身が自分の思想を体系的に記したものではない。孔子の死後、その弟子たちが孔子の言行や門人たちとの対話を編纂し、漢代になって成立したものである。日本には、応神天皇の十六年(西暦285年)に、百濟(くだら)から伝来したといわれる。

孔子は周王朝の基礎を築いた周公(しゅうこう)の政治を理想とし、「徳治」と「仁政」を主張した。孔子が最も重視したのは「仁」である。「仁」は『論語』のなかで明確に定義されていない。孔子は、弟子たちの人柄に応じて、「忠恕」・「己れを克めて礼に復る」・「人を愛す」といった間接的なことばで「仁」を説明し、「孝悌(親につくすことや長幼の恭順)」こそが「仁」の根本であるとした。「仁」は、人と人との間に自然に発する親愛の情であって、徳を徳たらしめるものとして思想の中心に置かれたのである。孔子は、仁の徳を完成することが「君子」の道であると考え、文行忠信(読書・実践・誠実・信義)が「仁」に至る方法であるとした。

また、孔子は「仁」と同様に「礼」も重視した。「礼」は、単なる虚礼や形式的なものではない。「仁」が人間関係の基本であるのなら、「礼」はそれを維持するための規範であり、人間の内面にある仁の具体的な表現である。孔子の主張した「徳治主義」とは、「君子」が「仁」の道徳によって民衆を導き、「礼」によって社会を秩序づけようとするものであった。

## Key Word 仁

其の人と為りや、孝弟にして上を犯すことを好む者は鮮なし。上を犯すことを好まずして乱を作すことを好む者は、未だこれ有らざるなり。君子は本を務む。本立ちて道生ず。孝弟なる者は其れ仁の本たるか。(『論語』学而)

子の曰わく、巧言令色、鮮なし仁。(『論語』学而)

顔淵、仁を問う。子の曰わく、己れを克めて礼に復るを仁と為す。(『論語』顔淵)

樊遲、仁を問う。子の曰わく、人を愛す。(『論語』顔淵)

(現代語訳)

その人がらが孝行悌順でありながら、目上にさからうことを好むような者は、ほとんど無い。目上に逆らうことを好まないのに、乱れを起こすことを好むようなものは、めったに無い。君子は根本のことに努力する、根本が定まって初めて[進むべき]道もはっきりする。孝と悌ということこそ、人徳の根本であろう。先生が言われた。「ことば上手の顔よしでは、ほとんど無いものだよ、仁の徳は。」

顔淵が仁のことをおたずねした。先生はいわれた「内に」わが身をつつしんで「外は」礼[の規範]にたちもどるのが仁ということだ。

樊遲が仁のことをおたずねすると、先生は「人を愛することだ。」といわれた。

< 金谷治(訳注)『論語(岩波文庫)』 岩波書店 >

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 論語 改訂新版(岩波文庫) / 金谷治(訳注)  
岩波書店 1999年刊 429p <I123/□A> 資料番号 21214143
- 📖 新釈漢文大系 1 論語 改訂 22版 / 吉田賢抗(著)  
明治書院 1986年刊 8,464p <082/14/1A> 資料番号 12785481
- 📖 全釈漢文大系 第1巻 論語 / 平岡武夫(著)  
集英社 1980年刊 595p <122/30/1> 資料番号 10204212

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 論語と孔子の事典 / 江連隆(著)  
大修館書店 1996年刊 486p <124.12/6> 常置(相談室) 資料番号 20876314  
\* 図や絵をとり入れ、人名やキーワードを解説した事典。孔子編と論語編の二部構成。
- 📖 孔子 / 井上靖(著)  
新潮社 1989年刊 413p <F1X/I10-71> 資料番号 20092573  
\* 春秋末期の乱世に生きた孔子の人間像を描く歴史小説。野間文芸賞受賞。
- 📖 孔子(岩波文庫) / 和辻哲郎(著)  
岩波書店 1988年刊 165p <I124/7> 資料番号 20063137
- 📖 鑑賞中国の古典 第2巻 論語 / 加地伸行(ほか著)  
角川書店 1987年刊 558p <928Y/6/2> 資料番号 20144838
- 📖 史記世家 中(岩波文庫) / 小川環樹(ほか訳)  
岩波書店 1982年刊 372p <I22/シ/2> 資料番号 12253605  
\* 孔子伝「孔子世家」の現代語訳。
- 📖 論語の新研究 / 宮崎市定(著)  
岩波書店 1974年刊 388p <123.8/29> 資料番号 10206399
- 📖 孔子伝(中公叢書) / 白川静(著)  
中央公論社 1972年刊 283p <124.2D/8> 資料番号 10206712
- 📖 世界の名著 3 孔子・孟子 / 貝塚茂樹(編)  
中央公論社 1966年刊 558p <080/5/3> 資料番号 12784211
- 📖 下村湖人全集 第5巻 / 下村湖人(著)  
池田書店 1965年刊 446,9p <918.6/169/5> 資料番号 12064903  
\* 「論語」の中の言葉を小さな物語に仕立てた「論語物語」を収録。「現代訳論語」を含む。
- 📖 論語(講談社現代新書) / 貝塚茂樹(著)  
講談社 1964年刊 198p <123.83/4> 資料番号 20598074
- 📖 孔子(岩波新書) / 貝塚茂樹(著)  
岩波書店 1951年刊 3,204p <124.2/1> 資料番号 10206639
- 📖 論語之研究 / 武内義雄(著)  
岩波書店 1939年刊 362,6p <123.8/6> 資料番号 10206076
- 📖 論語と孔子の思想 / 津田左右吉(著)  
岩波書店 1946年刊 523,22p <124.2/3> 資料番号 10206662